

仕事納め式にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、年の瀬のお忙しい中、井元副議長をはじめ、議員各位におかれましては、ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、職員の皆様には、日々市政の最前線で市民の安全、安心のため、それぞれの分野において取り組んでいただいております。今年も大変お疲れ様でした。

私は去る 11 月 6 日、市町村合併後第 3 代目の平戸市長として初登庁し、以降、この約 2 か月間、市政の現場に身を置きながら、平戸市が抱える可能性と課題、その重みを日々実感してまいりました。

国政の現場において様々なことに携わり、経験を積んできた私にとっても、自治体の現場はまさに「市民の暮らしと直結する政治」の最前線であり、その責任の大きさを改めて痛感し、胸に刻んでおります。

振り返りますと、今年は国内外を問わず、社会の不確実性が一層高まった一年でありました。物価高騰、一次産業を取り巻く環境の変化、人口減少や地域医療の課題など、地方自治体に突き付けられた課題は決して小さくありません。そのような中であっても、平戸市が日々の行政を滞りなく進め、市民の暮らしを守り続けることができたのは、まぎれもなく、現場で汗を流してこられた職員一人ひとりの力の結集であります。

また、市議会議員の皆さまには、常に市民目線に立ったご議論と建設的なご提言をいただいております。市政は、行政だけでは前に進みません。議会との信頼関係こそが、市民の安心と未来を支える土台であります。今後とも、真摯な議論を重ねながら、より良い平戸を共につくっていきたいと考えておりますので、引き続きご指導ご助言くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

私は就任以来、「できない理由を並べるのではなく、どうすればできるかを考える行政」づくりを目指しております。

一次産業の再生、暮らしに寄り添う医療・交通体制の構築、離島や中山間地域を含めた安心の確保、そして市民の声が届く開かれた市政。

これらは決して夢物語ではなく、職員の皆さんと力を合わせれば、必ず形にできる現実的な挑戦であると確信しております。

平戸には、貴重な歴史、豊かな自然、人の温かさという、ほかには代えがたいものがあります。そして何より「可能性」があります。私は、このまちの持つ魅力と可能性を皆さまとともに、平戸の誇りとして未来につなげていきたいと考えております。

年の瀬を迎え、今年は私にとっては、人生における新たな「スタートの年」でありました。そして来年は、平戸市にとって「本格的に未来へ舵を切る年」になります。

市民の皆さまが「このまちに住み続けたい」「このまちで挑戦したい」と思える平戸を実現するため、私は先頭に立ち、皆様とともに、市政運営にあたることをお約束いたします。

職員の皆さまにおかれましては、年末年始、しばし心と体を休め、ご家族や大切な方々と過ごす時間の中で、英気を養っていただければと思います。新しい年が、皆さまお一人おひとりにとって、健やかで実り多き一年となることを心より祈念いたします。

結びに、市民の皆さまのため、議会の皆さま、そして職員の皆さんとともに、「未来をひらく、きずなを結ぶ平戸」を実現していくことをお誓い申し上げ、仕事納め式でのごあいさつといたします。

本年も誠にありがとうございました。